

真行草

令和4年
11月発行

第15号

編集・発行 浜松医科大学弓道部 OBOG 係 hamaikyudoobog@gmail.com

毎年1回発行

浜松医科大学弓道部 ホームページアドレス
<http://hamaikyudo.wp.xdomain.jp/>

更に楼の一層を上る



2022年8月15日 西日本医科学学生交流試合(オンライン)

絵本『そらいろ男爵』を読む

弓道部師範 佐藤清昭

はじめに

数ヶ月前の新聞で、ノンフィクション作家で評論家の柳田邦男氏が、何冊かの「絵本」を紹介していました。いくつか読んでみました。その内のひとつ(『そらいろ男爵』, Le baron bleu, 2014 フランス)の内容をまとめてみます。

「そらいろ男爵」という名前の男性が、自分で作った「空色に塗った飛行機」に乗って、誰にも邪魔されずに鳥を眺めることを楽しんでいた。——ところが戦争が始まってしまった。男爵も、敵をやっつけるために空から戦わなければならなくなった。——男爵は砲弾になるものをさがした。重くて、当たったら、ガツーンと痛いもの……。これだ！分厚い辞書だ。百科事典だ。——男爵は敵の上に行っては帰り、行っては帰りを繰り返かえした。そしてとうとう砲弾は無くなってしまった。残った厚い本は、ロシアの小説だ。

[該当のページの絵では、敵の兵士の頭の上に本が落ちて来ている。それはトルストイの『戦争と平和』]

残念！本はまともには当たらなかった。でも、敵の隊長はそれをひろうと、黙って司令室に閉じこもってしまった。——こうして戦いの命令はストップ。次の朝、隊長の目はまっ赤になっていた。夜どおし本を読んでいたらしい。——この勝利に気をよくした男爵は、もっともっとやることにした。分厚い本はもうないけれど、面白い本ならまだある。——まず、ふしぎな冒険談で敵をまよわせ、次に、だれも思いつかなかったアイデアをドカンとぶちかまし、最後に、みごとな論理で手も足も出せないようにした。兵士たちは、あんまりおもしろかったので、みんな戦いを休んで読ん

だ。——前線で激しいぶつかり合いがあるたびに男爵がやってきて、たちまち戦いを止めてしまうのだった。

料理の本が雨のように、思想の本が矢のように、歴史物語が光のようにふりそそいだ。——男爵が天文学の本を投げると、兵士たちは(敵ではなく)星ばかり見張るようになった。——男爵が詩集をまくと、鉄砲の先から花が生えてきた。男爵はだんだん落とし方を考えるようになった。小説のはじめの半分を味方の陣地に落とし、残りの半分を敵の陣地に落とすと、敵と味方がお互いに話をするきっかけが生まれた。

そしてある日、男爵は名案を思いついた。戦争をやめさせる名案だ。家族からの手紙を落としたのである。味方の兵士への手紙は、敵の陣地に。敵の兵士への手紙は、味方の陣地に。兵士たちはみんな心を打たれた。もちろん、戦争は終わった。……こうしてそらいろ男爵は勲章をもらった……とさ。

おわりに

(1) この本の作者はフランスのジル・ボム、絵はティエリー・デデュー、訳者は中島さおり、発行は主婦の友社です。内容も、絵も、訳文もすぐれたものだと思います。

(2) この絵本を楽しむ秘訣は、(翻訳でいいので)「原本」を手にする事です。何しろ絵本ですから絵を見なければ話にならないし、私の「要約」だけでは実際の感動の半分も伝わりません(今は情報が有り余っているために、若者の間には、映像は録画したものを「早送り」で見たり、文学書も、その「ダイジェスト版」だけを読む人たちがいるそうですが、それはいけません)。

(3) 柳田邦男氏はこの絵本のほかに、『とんでいったふうせんは』(絵本塾出版)、『大きな木』(あすなる書

房)などを紹介しています。前者は、子どもに老人の「認知症」を理解してもらうのに役立つだろうし、後者は、子どもさんを持つ皆さん(大人)にぜひ読んでもらいたいものです。

努力

弓道部部長 三澤清先生(平成6年度卒)

佐藤清昭前部長から部長を引き継いで9年目になりました。2年前から続くコロナ禍での活動が続いていますが、弓道部では松本萌弥前主将から阪部千峻新主将に引き継ぎが行われています。部内の活動では、主管の準備をしていた西医体が直前に中止となり、多くの時間を費やしていた幹部の皆さんの努力が実を結ばなかったのは非常に残念でした。しかし、この努力と経験が今後のコロナ後の活動にきっと生かされると期待しています。浜松医大弓道部のすごいと思うところは、オンラインで西医体の代替試合を開催したことです。私は、20年ぶり2回目の大会主管の大役を立派に“果たした”と評価したいと思います。

新歓、追いコンなどの飲み会という形の活動は、ほぼ3年行われていません。3年生、4年生の講義も実習以外はオンラインで行われています。ポリクリがはじまってやっと弓道部の学生の顔と名前が一致する状態で、看護学科の学生さんとは話をする機会も減ってしまっています。そんな状況下でも、昨年3月には、卒業生と佐藤先生に企画をしていただき3か所(都田公園、卒業生の部屋、私の自宅)をオンラインで結んでお弁当を食べながら卒業生と交流する機会がありました。卒業写真を撮影するだけで終わった2年前と比べてもこういう機会があるとないとはだいぶ違うと思いました。皆さんに感謝です。

私は、耳鼻咽喉科講座を主宰する立場になって1年少し経ちますが、教育面では学生さんは教授のことで見て、話をしたり聞いたりして耳鼻咽喉科はどういう所かを判断することが多いと感じています。この10

年、美馬勝人先生を最後に弓道部員が浜松医大の耳鼻科に入局していません。今年の6年生から、私の同期で耳鼻科開業医の竹山昌孝先生(竹山杯の主宰者)の支援を受けて、弓道部の選択ポリクリ生との情報交換会を始めました。私が定年退職するまでに、耳鼻科に毎年弓道部出身が入るぐらいになるといいなと思っています。人事面などで優遇することなどはできませんが、弓道部の後輩で熱心である人にはどんどん活躍してほしいと思っています。

最後になりますが、OB・OGの皆様には、日ごろから弓道部への厚いご支援をいただき大変感謝しております。今後とも、継続的なご支援をよろしく願いいたします。

前主将挨拶

第34代主将 松本萌弥(医学科3年)

立冬の候、OB・OGの皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

今年の9月頭まで浜松医科大学弓道部の主将を務めさせていただきました、医学科3年の松本萌弥です。1年間主将の職務を全うすることができたのは、部員の協力だけでなく、OB・OGの皆様のご援助のおかげです。この場を借りて、ご援助を頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

主将としての1年間、私は部員が協調性をもって互いの価値観を尊重し合える部活にすることを目標に掲げ、より良い部にすることに励んでまいりました。未熟な点も多く、部員に迷惑を掛けることも多々あり、集団を引っ張っていくことの難しさ、またこれまでの先輩の偉大さを痛感する日々でした。

今年もまだまだ新型コロナウイルスの影響が続く、わが大学が主管を務めていた西医体が中止になるなど、制限の多い日々ではありますが、その中でも少しずつ対面での対外試合も実現するようになりました。後輩たちもこれを刺激にますます成長してくれるこ

とと思います。私も引退した身ではありますが、これからは部のためにできることに励んでまいります。

次期主将は医学科3年の阪部千峻が務めます。このご時世で目まぐるしく状況が変化しつづける中での活動ではありますが、弓道部をより良い部活にしてくれることと思います。

末筆になりましたが、OB・OGの皆様方のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、前主将挨拶とさせていただきます。

新主将挨拶

第35代主将 阪部千峻(医学科3年)

暮秋の候、OB・OGの皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

9月より浜松医科大学弓道部の第35代主将を務めることとなりました、医学科3年の阪部千峻と申します。OB・OGの皆様が築き上げてこられた伝統ある部の主将を務めさせていただくことを光栄に思うと同時に、大変身が引き締まる思いです。

今年度も医学科8名と看護学科2名の合わせて10名の新たな仲間を迎え入れ、現役部員が26名、全体で52名という、ますます賑やかな部活となりました。幸いなことに、多くの対外試合が今年度から対面形式で行われる予定となっております。これもまた、ひとえにOB・OGの皆様のご支援のおかげです。この場を借りて、ご支援を頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。今年度もOB・OGの皆様の良い結果を報告できますよう、日々精進してまいります。

さて、私の考える主将としての役目は、弓道部の伝統を受け継いでいくとともに、部員全員が弓道や部の行事を通して楽しむことができるように努めていくことだと考えております。弓道を頑張りたいという部員のために環境を整えるのはもちろんのこと、様々な考えを持つ部員一人一人の意見を尊重しつつ部活をまとめていかなければならないと考えております。

未熟な点も多く、ご迷惑をお掛けすることも多々あるとは存じますが、変わらぬご指導ご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、皆様のご健勝とご発展を心からお祈り申し上げ、新主将挨拶とさせていただきます。

前看護科主務挨拶

林茉莉亜(看護学科2年)

晩秋の候、OB・OGの皆様におかれましては、時下ますますのご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素より浜松医科大学弓道部に格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

昨年の9月より1年間看護科主務を務めさせていただいた看護学科2年の林茉莉亜です。

今年8月の下旬に西日本看護学生弓道選手権大会が3年ぶりに開催されました。対面ではなくオンライン形式の試合でしたが、「開催できた」ということがとても大きなことだと感じております。本大会の出場経験もなく、右も左もわからない状態でしたが、皆様の温かいご支援・ご協力を賜り、無事に終えることができました。団体戦5位という結果でしたが、一年を通して決して満足に練習ができたとは言えない状況の中では、十分な結果であったと思っています。

来年は対面で開催される予定ですので、現役の看護学科の子達には、場の雰囲気など対面でしか味わえない部分を楽しんでもらいたいと思っています。また、皆様も応援の程よろしく願いいたします。

今年度は、10名の新入生が弓道部に入部する運びとなりました。その内看護学科の学生は2名でした。これから弓道部で、様々な経験をして、多くのことを学び取ってほしいと思っています。

次の看護科主務は、看護学科2年の生越あさぎが務めることとなります。彼女は、非常に練習熱心で、弓道部に積極的に関わる姿勢を持ち合わせています。自分のペースで看護科主務という務めを果たしてくれることと思います。

今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

末筆ではございますが、皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、前看護科主務の挨拶とさせていただきます。

新看護科主務挨拶

生越あさぎ(看護学科2年)

惜秋の候、OB・OGの皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、深く御礼申し上げます。

9月より1年間、看護科主務を務めさせていただくことになりました、看護学科2年の生越あさぎと申します。

今年8月には3年ぶりに西看大がオンラインで開催され、団体では5位入賞を果たすことができました。来年は高知県にて対面開催が予定されております。今年の経験と反省を活かし、皆様により良いご報告ができますよう、看護学科一同日々弓道に励んでまいります。

さて、入部してからの一年間は先輩方のご指導の下、ただひたすら自身の弓道に取り組んでまいりました。新たに後輩ができ役職を持った今、自分が弓道部の中でどうあるべきか、何を成せるのか考える日々です。私は部員一人一人が弓道を楽しみ、笑顔の多い道場であることを願っています。そのために、常に全体を俯瞰することで小さなことにも気づけるよう意識して、微力ながら弓道部を支えていける存在になりたいと思います。

何かと至らぬ点が多々あるかと存じますが、これからの弓道部に貢献できますよう誠心誠意努めてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお祈り申し上げます。

末筆ながら、皆様の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新看護科主務の挨拶とさせていただきます。

OB・OGの方々からご寄稿を頂きました!

横浜南共済病院

小川結衣先生(令和3年度卒)

初冬の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。令和3年度医学科卒業生、横浜南共済病院初期研修1年目の小川結衣と申します。入職してから半年経ち、自分の至らなさを痛感する日々を過ごしておりますが、上級医の先生方々、看護師の方々のおかげでなんとか精進しております。この度は寄稿の機会をいただけたこと、大変嬉しく存じます。

6年ぶりの後輩のいない生活に少し物足りなさを感じるときもありますが、時折弓道部のホームページを覗いては部員の皆さんが変わらずに弓道に打ち込んでいる様子、部活を楽しんでいる様子を拝見し、喜ばしい気持ちになっております。今年度は主管予定の西医体は中止となってしまい、3年ぶりの開催実現に向けて尽力していた部員はやりきれない思いもあったことと存じます。

しかし、中部ブロックや四校戦など昨年より多くの大会が開催され、部活動の休止などの制約があった中で大会毎に優秀な成績を修められたことはこれからの大きな自信になるのではないのでしょうか。部員の皆さんが今後も充実した部活動を行えるよう、OGの一員として微力ながら協力させていただく所存です。卒業してからは浜松を訪れる機会がありませんでしたが、また部員の皆さんと共に弓を引けることを楽しみにしております。

末筆ではありますが、皆様のご健康とご多幸、今後の弓道部の発展を心よりお祈り申し上げます。

静岡済生会総合病院

山口藍先生(令和3年度卒)

晩秋のみぎり、OB・OGの皆様ならびに在学生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。令和3年度卒、静岡済生会総合病院研修医1年目の山口藍と申します。この度大変ありがたいことにこのような機会をいただきましたので、僭越ながら寄稿させていただきます。

働き始めて早くも半年が経ちましたが、今も弓道部の上下を超えた繋がりや部活を通して培った精神面に支えられる毎日を送っています。慣れない環境、まだ分からない病院でのお作法、自身のつたない技術、覚えていたはずなのに国試後すぐにすっからかんになっていた知識…期待感とは裏腹に医師として最初の一步目も踏み出せていないのではないかという焦りを感じる時、私には弓道部の先輩方が就職後も身近な存在としていてくださり、いつでも悩みを相談できるという安心感とこういうふう頑張ればいいのかという具体的な道しるべを与えていただいています。大学時代の活動が確実に人脈や経験として自分の糧になっていると感じ、改めて熱く打ち込める部活の存在があったことに深く感謝しています。

先日久しぶりに弓道場を訪れた際に、ついこの間まで1年生だと思っていた学年が立派に後輩を指導して仲良く弓道に打ち込んでいる様子を拝見しました。コロナ禍になり学生生活は全く違うものに変化していることと思いますが、いつまでも弓道部の繋がりや強さが続いてほしいと切に願うばかりです。また、今後は自分自身も卒業後も続く弓道部の繋がりや下を繋げていく一員としてますます精進していきたいと思っております。

コロナがこのまま少しずつ収束に向かい、総会などでOB・OGの皆様と在学生の皆様にお会いできる日がくるのを楽しみにしております。末筆ではございますが、皆様のご多幸と弓道部の更なる発展を心よりお祈り申し上げます。

今年度もOB・OGの方々からご寄稿を賜りました。お忙しい中、誠にありがとうございました。今年度に引き続き、来年度の会報誌にもぜひご寄稿のご協力をお願い申し上げます。

近況報告 (一年間の弓道部の様子と、部員からの近況報告を掲載します。)

OB・OG の皆様には平素より多大なるご支援を賜り誠にありがとうございます。昨年度は、一年間に亘り西医体主管の準備を進めてまいりました。開催こそ叶いませんでしたが、開催に向けた全てが今後の弓道部の発展に繋がるものだったと感じております。今後も、皆様にいただいたものを後輩たちに受け継いでいけるよう、日々精進してまいります。

大河原栞(医学科 4 年)



↑10月 三校戦 (2021年度)



↑11月 秋のイソップ・竹山杯

OB・OG の皆様、平素より多大なるご支援を賜り誠にありがとうございます。お陰様でコロナ禍にも柔軟に活動を続け、鍛錬・交流の場を持つことが出来ております。また主管に際しては一層のご支援ご協力をいただき、心より感謝しております。今後も過渡期に向き合っていく現役生を、私も精一杯サポートしていきたいと思っております。引き続きご支援いただけますようお願い申し上げます。

田淵明日香(医学科 6 年)

OB・OG の皆様、平素より多大なる支援を賜りありがとうございます。弓道部に入部してから一年半経ちますが、支えてくださる皆様のおかげでこのようにコロナ禍でも部活ができています。制限される中でも部活ができることに感謝し、日々努力を重ねたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

大西舞奈(医学科 2 年)



↑12月 グラスカップ



OB・OG の皆様、平素より多大なるご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、長引くコロナ禍の中、対応に尽力されている皆様に深く感謝申し上げます。引退してから早1年、以前ほど弓道場に足を運ぶことはなくなりましたが、一部員として弓道を楽しんでおります。対外試合等が制限される中ではありますが、懸命に部活を運営している後輩たちと共に、先輩方が築いてくださった弓道部を盛り上げてまいります。

杉浦勇希(医学科5年)



↑12月 冬のうなぎ杯



OB・OG の皆様、先輩方、日頃からのご支援やご指導ありがとうございます。

弓道を習い始めて半年、日々の稽古や試合を通じて沢山の貴重な経験をする事ができました。未だにコロナの影響もある中、こうして充実した部活動ができているのも OB・OG の皆様からの温かいご支援や先輩方の丁寧なご指導のおかげです。これからも皆様への感謝の気持ちを忘れずに稽古に励もうと思います。

水越杏美(看護学科1年)



↑5月 春のイソップ・竹山杯(2022年度)

OB・OGの皆様、平素より多大なご支援を賜り誠にありがとうございます。

引退した今でもなお、弓道部で培った人間関係に支えられながら日々実習に励んでおります。その中で、部員同士の繋がりや強さを改めて実感いたしました。このような深い絆を紡ぐことができる弓道部という場所を築き、受け継いで下さったOB・OGの皆様、心より感謝いたします。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

鈴木芽依(看護学科4年)



↑6月 東国体



↑6月 中部ブロック

OB・OGの皆様、平素よりご支援賜りまして、誠にありがとうございます。弓道部に入部して半年が経ち、弓道初心者の私も、OB・OGの皆様からのご支援と道場にいらっしゃる先輩方のご指導のおかげで、弓道や弓道部の仕事、オンライン大会など、様々なことに慣れて来たように感じます。これからも、皆様からのご支援やご指導に感謝をしながら、弓道に励んでいきたいと思っております。

伊藤優貴(医学科1年)

春には、医学科6人、看護学科2人の先輩方がご卒業され、新たに医学科8人、看護学科2人の新入生を迎えました。



↑7月 四校戦

OB・OGの皆さま、日頃より多大なご支援をいただき誠にありがとうございます。

6年生となり、学生生活を振り返ると弓道部で先輩、後輩、同級生と共に過ごした時間や経験がとても貴重なものであることを改めて実感しております。多くの方々に支えていただきながら、弓道部員として楽しく過ごすことができた6年間に感謝し、卒業後はOGとして弓道部の発展を見守り、支えていきたいと存じます。

梁瑗眞(医学科6年)

OB・OGの皆様、平素より多大なご支援を賜り誠にありがとうございます。今年度は、幹部学年として、そして西医体の主管を通して、先輩方や後輩のありがたみ、そしてOB・OGの皆様が引き継いでくださったものの偉大さを痛感しました。これから少しずつ対面試合の再開等、課外活動の幅がコロナ前のように戻って行くと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

高林直也(医学科4年)

OB・OGの皆様、平素より多大なご支援を頂き誠にありがとうございます。新型コロナウイルスの脅威は依然として続くものの、対面での対外試合も少しずつ行えるようになりつつあります。また、幹部学年となり、日々の活動を行っていく中で、これまで以上の努力を重ねなければと感じております。改めまして、偉大な先輩方が築いてくださった弓道部で活動できることに深く感謝申し上げますと共に、今後ともどうかよろしくお願いいたします。

原田昂汰(医学科3年)



↑8月 西日本医科学生交流試合

弓道部に入り半年が経ちました。先輩方から丁寧にご指導いただき、少しずつではありますが成長を感じ、充実した日々を送ることができています。弓道初心者かつ編入生という私を快く受け入れてくださった弓道部には大変感謝しております。このような環境があるのも OB・OG の皆様のご支援のおかげであることを心にとめ、これからも日々精進してまいります。

月森康夫(医学科 2 年)



↑8月 西看大



OB・OG の皆様、平素より多大なご支援を賜りまして誠にありがとうございます。今年に入って対面での試合も行われるようになり、徐々にではありますがもとの形を取り戻してきました。最近では引退して、部活動以外の活動も増えてきましたが、弓道部での繋がりはかけがえのないものだと感じます。来年が最終学年となりますが、西医体の開催を願いつつ、悔いの残らぬよう精進してまいります。

大澤悠(医学科 5 年)



↑8月 主将杯

PDF ファイルについて

本年度もカラーページが多いため、より見やすいものを見ていただけるように、ホームページからダウンロードをできるようにいたしました。

是非ご覧ください。

<http://hamaikyudo.wp.xdomain.jp/>から
[アイテム] → [会報誌]にてご覧になれます。

試合結果 (2021.10~2022.10)

三校戦 2021.10.24

【団体戦】

男子団体 優勝

女子団体 A 優勝

【男子個人戦】

優勝 杜博文 (医学科 4 年)

準優勝 岡田望鶴 (医学科 1 年)

【女子個人戦】

優勝 小嶋優規乃(医学科 1 年)



東国体 2022.6.11

【女子個人戦】

優勝 山本欣玲 (医学科 2 年)



中部ブロック医科学生弓道大会 2022.6.25

【団体戦】

男子団体 準優勝

女子団体 B 優勝

女子団体 A 準優勝

【男子個人戦】

優勝 山口真央 (医学科 5 年)

準優勝 菱田昂太郎 (医学科 5 年)

【女子個人戦】

優勝 江川由愛 (医学科 3 年)

準優勝 一ノ宮未来 (医学科 4 年)



四校戦 2022.7.9

【団体戦】

女子団体 A 優勝

【男子個人戦】

優勝 岡田望鶴 (医学科 2年)

準優勝 大塚隼士 (医学科 2年)

第三位 大澤悠 (医学科 5年)



西日本看護学生弓道選手権大会 2022.8.24~26

【団体戦】

団体 A 第5位入賞



西日本医科学生交流試合 2022.8.14~15

【男子個人戦】

第五位 栗田幸太郎 (医学科 5年)

【女子個人戦】

優勝 一ノ宮未来 (医学科 4年)

第三位 高橋凜 (医学科 2年)



学年はすべて当時のものを記載しております。

昇段審査結果 (2021.10~2022.10)

2021 年

11 月 第 6 回地方審査会(静岡市・静岡市北部体育館弓道場)

初段 大塚隼士 (医学科 1 年)
 大西舞奈 (医学科 1 年)
 岡田望鶴 (医学科 1 年)
 生越あさぎ (看護学科 1 年)
 小嶋優規乃 (医学科 1 年)
 川又柚葉 (看護学科 1 年)
 黒石紀夏 (医学科 1 年)
 齋藤遥 (医学科 1 年)
 高橋凜 (医学科 1 年)
 山本欣玲 (医学科 1 年)

貳段 江川由愛 (医学科 2 年)
 加藤脩志 (医学科 2 年)
 河野竜聖 (医学科 2 年)
 阪部千峻 (医学科 2 年)
 藤川佳澄 (医学科 2 年)
 林茉里亜 (看護学科 1 年)

2022 年

5 月 第 4 回地方審査会(藤枝市・静岡県武道館弓道場)

貳段 原田昂次 (医学科 3 年)
 岡田望鶴 (医学科 2 年)
 生越あさぎ (看護学科 2 年)
 高橋凜 (医学科 2 年)

参段 江川由愛 (医学科 3 年)
 加藤脩志 (医学科 3 年)
 阪部千峻 (医学科 3 年)

9 月 第 6 回地方審査会(藤枝市・静岡県武道館弓道場)

貳段 山本欣玲 (医学科 2 年)
 参段 村松真衣 (医学科 1 年)

10 月 第 9 回地方審査会(浜松市・浜松市弓道場)

初段 月森康夫 (医学科 2 年)
 伊藤優貴 (医学科 1 年)
 池谷花蓮 (医学科 1 年)
 遠藤青嶺 (医学科 1 年)
 奥田翔一 (医学科 1 年)
 金子翼 (医学科 1 年)
 杉森徳心 (医学科 1 年)
 水越杏美 (看護学科 1 年)

貳段 大塚隼士 (医学科 2 年)
 小嶋優規乃 (医学科 2 年)
 川又柚葉 (看護学科 2 年)
 黒石紀夏 (医学科 2 年)
 齋藤遥 (医学科 2 年)

参段 藤川佳澄 (医学科 3 年)
 岡田望鶴 (医学科 2 年)



↑ 第 4 回地方審査会の様子

学年はすべて当時のものを記載しております。

第 74 回西医体を振り返る

浜松医科大学が主管を務めた今年度西医体は、残念ながら中止となり、3年ぶりの開催はかないませんでした。しかし今回の主管を経験したことで、対面形式の試合の緊張感や主管校の持つべき視野の広さなど、コロナ禍の活動形式では中々得難い学びを得られたと実感しております。

西医体に関する業務は、西医体運営委員会を中心に部員で一丸となって進めてまいりました。

主管準備

部活全体での準備は5月に始まり、係内の打ち合わせやマニュアル作成、愛知県の新城総合公園弓道場や錬成館といった外部道場を借りてのリハーサル等を行いました。実際の試合の流れに沿って仕事をしてみるとマニュアルの改善点が多く見つかるため、都度係長会議で共有しながらより練度の高い主管になるよう努めてまいりました。



↑ 第 1 回西医体リハーサルの様子

7月中旬には西医体主管の予行演習として、四校戦(名古屋・三重・岐阜・奈良県立医科)に参加し、主管をいたしました。殆どの部員にとって初の対面試合主管となりましたが、恙なく試合を終えることができ、来る西医体の主管に向けた弾みとなりました。

西医体中止

7月下旬、新型コロナウイルス感染症の再拡大のため、西医体の開催中止が決定されました。責任や期待が高まっていた矢先の急な通知で、喪失感のうちに各種キャンセル等手配をしておりました。

そんな中、他大学からの提案を機に、オンライン形式の代替大会開催が決定いたしました。

代替大会の開催

西医体代替大会は「西日本医科学生交流試合」という名称で、西医体進行の準備を活かす形で浜松医科大学が主管を務めました。オンラインのビデオコミュニケーションアプリを用いた試合では最大規模の参加校数となり、団体戦・個人戦ともに大いに盛り上がりました。



↑ 代替大会団体戦の様子

準備から中止、代替大会開催と、今夏は目まぐるしい日々でしたが充実した期間でした。主管に際してOB・OGの皆様の暖かいご支援をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。

西医体のためにした全ての準備が弓道部の更なる発展の糧になるよう、部員一同今後も精進してまいります。

第5回 OBOG 総会のお知らせ

第4回 OBOG 総会では、多くの OB・OG の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

第5回 OBOG 総会は、2023年2月26日に開催いたします。前回同様、多くの OB・OG の皆様のご参加を心よりお待ちしております。詳細は決まり次第ご連絡いたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

会費・決算報告について

OB・OG の皆様に OBOG 会費納入のご協力をお願い申し上げます。詳細は、同封の別紙をご参照ください。

また、前年度の決算報告について記載した報告書も同封いたしました。多くのご支援、深く感謝いたします。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 編集後記

初霜の折、皆様におかれましては、ますますご清祥のことと心よりお慶び申し上げます。

2020年初めに新型コロナウイルス感染症が流行し始めてからそれまでの生活は大きく変容し、現在は新型コロナウイルス感染症と共存する「ウィズコロナ時代」へと移り変わりつつあります。対応が長期化し日々状況が変化する中、医療現場の第一線で治療や研究にあたっていらっしゃる医療従事者の皆様に、深く敬意を表するとともに心より感謝申し上げます。

浜松医科大学弓道部におきましても、この1年は変化の年となりました。東国体(6月)・四校戦(7月)は約3年ぶりに対面形式で試合が行われ、多くの現役生が初めて対面試合ならびに対面試合の主管を経験し、大いに刺激を受けました。今後対面形式での試合が徐々に増えていくと思われませんが、いかなる環境でも最善を尽くしOB・OGの皆様により結果がご報告できるよう、部員一同精進してまいります。

第5回 OBOG 総会は、新型コロナウイルス感染症の影響で長らく延期となっておりますが、来年2月に開催する運びとなりました。OB・OGの皆様には、久しぶりに弓道部とのつながりを感じて楽しんでいただければ幸いです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

最後に、本年度も引き続きご支援ご厚情を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

OBOG 係 藤川佳澄 生越あさぎ 池谷花蓮